

学内情報を用いたシーズ分析と 地域事業者のニーズ分析によるマッチング情報の創出

研究の背景及び目的

本学が「地域の大学」を目指す際、**地域ニーズと本学シーズとのマッチング活動**は重要な活動となる。そして、この活動が効率的かつ質の高い活動となるために、地域ニーズも本学シーズもその動向を**調査し続け、分析およびマッチングする手法を検討**しておく必要がある。そこで、学内の研究者情報を保持する宮崎大学情報データベースをもとにシーズ分析を行うと同時に、県や市町村および地域企業が公開するオープンデータをもとに地域ニーズ情報や産業界のニーズ情報を収集し、量的にも質的にもニーズ分析を行ったうえで、**ニーズとシーズの可視化およびマッチング支援**を目指す。

実施状況

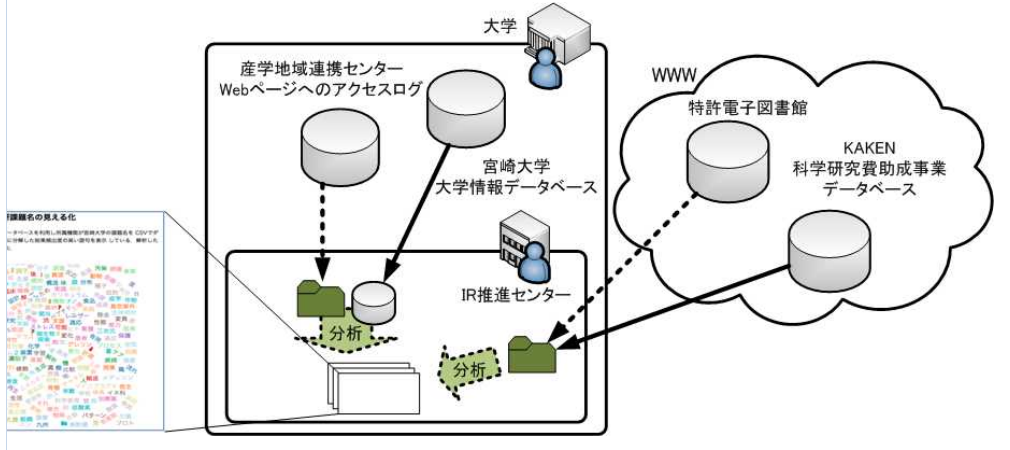
シーズ分析

宮崎大学大学情報データベースで利用されるデータベースをクローン化した後に研究課題等を抽出する予定であったが、データベースをクローン化する段階にあり、抽出処理まで至っていない。大学情報データベースは多種多様なデータを含むが、入力情報がまばらであるなどの問題も多い。

科学研究費助成事業データベース(KAKEN)は手続き処理が行われる関係上、主要項目については入力漏れが少ない。残念ながら、項目によっては未入力や誤入力もある。本学シーズを可視化する試みとして、科研費で採択されている研究課題の情報をCSV形式でダウンロードし、CSVファイルから研究課題名を抽出し、可視化を行った。

宮崎大学の科研課題名の見える化

科学研究費助成事業データベースを利用し所属機関が宮崎大学の課題名をCSVでダウンロードし、形態素に分解した結果頻度の高い語句を表示している。解析した結果5303語を抽出した。



ニーズ分析

県関係者および産学地域連携センターと意見交換を行った。また、広島大学で行われた特許情報を用いた取り組み、COC採択校の広島修道大学、地域との連携による教育体制構築で知られる広島経済大学興動館の取り組みについて訪問調査を行った。

- 2014年2月13日 産学地域連携センターと意見交換
- 2014年3月3日 県関係者と面会
- 2014年3月18日 産学地域連携センターと意見交換
- 2014年3月27日～28日 訪問調査(広島県、広島修道大学、広島経済大学興動館)

県や市町村のオープンデータの利用:市町村の活動データ, 市長や町長の政策方針

目標の達成度及び成果

宮崎大学大学情報データベースを直接用いた分析および可視化はできなかったが、公式に公開されている科研費データベースの情報を利用した分析および可視化について取り組み、シーズ情報の可視化処理のうち初期段階を達成できた。また、産学地域連携センターと相談のうえ、マッチングへ向け、協力して取り組むこととなった。ニーズ情報については、県関係者や産学地域連携センターなどの動向を見ながら、それらの取り組みの役に立つオープンデータを使った分析を行う方針を定めた。

今後の課題及び展開

- 教育、研究、社会貢献の各シーズとニーズについて分析と可視化を行い、産学地域連携センターとの協力体制を構築
- 教育、研究、社会貢献の各シーズとニーズに関するオープンデータ(科研データベースや市町村Webページなど)を用いた分析と可視化
- 教育、研究、社会貢献の各シーズとニーズに関する所有データとオープンデータとの対応関係を利用した分析と可視化

- ◆所属: IR推進センター
- ◆代表者: 岩本俊孝 (IR推進センター長)
- ◆担当者: 久保田真一郎
- ◆地域志向教育研究経費区分: 地域志向社会貢献事業経費

<問い合わせ先>
みやだいCOC推進機構
住所: 宮崎市学園木花台西1-1
Tel: 0985-58-7250
E-mail: coc@of.miyazaki-u.ac.jp